

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — — — )

事業所番号	0670102169		
法人名	有限会社エーベック		
事業所名	グループホーム人生の楽園		
所在地	山形市大字風間1261番地1		
自己評価作成日	令和4年1月10日	開設年月日	平成 18年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の目の前に村山高瀬川が広がり、四季折々の風景を楽しむことができます。近隣の住宅地も落ち着いたたたずまいで散歩をしていても安全な環境です。河川敷の草刈りやゴミ拾い、冬場の除雪などにより、地域貢献もさせていただいています。近隣の小学生なども授業の一環として訪問していただき、入居者の方々もとても喜んでます。重度の方であっても、外部の機関と連携をとりながら、看取りまで含めての体制ができています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和4年2月3日	評価結果決定日	令和 4年 2月 15日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来15年が経過し、地域や家族との結びつきを大切にしながら、利用者が参加する三食手作り料理や自家菜園作りなどを継続し、「これまでの生活を大切に住み慣れた地域で暮らし続ける」日常を実践している。コロナ禍で面会や外出制限をしながらも、毎月、家族宛てに、近況とケアプランの項目に合わせた手書きの「状況報告書」を送付し、家族への安心に繋げている。また近隣の小学生から、だんご木飾りを戴いた際は対面での交流は中止したが、利用者手書きの色紙をお礼にする等、工夫をしながら地域との交流を続けている。更に、夜間休日も含め24時間往診可能なかかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携のもとに看取り支援までの体制を構築している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設当初、「ゆっくり・楽しく・一緒に」という理念を策定し、その理念のもと可能な限り地域と一体となり運営している。	「一人ひとりのペースを尊重しゆっくりと」「家庭的な笑顔の絶えない楽園」「心と心で触れ合う、地域社会と一緒に」を理念として掲げ、開設当初から継続している。玄関や事務室に掲示し、職員会議で話し合い確認しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にコミュニティセンターの機関紙を届けていただき、それにより知りえた地域行事に出来るだけ参加し、近隣の小・中学校の社会科見学の受け入れもやっている。又、事業所の行事に地域の方々を招待している。	町内会に入会し定期的に届けられる機関紙から地域行事などを把握し参加している。コロナ禍の中でも、小学校からだんご木飾りを頂き、利用者はお礼に色紙を届けた。河川敷の草刈り、ゴミ拾いなどは例年通り継続して実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、地域の区長・民生委員・家族代表の方々と、事例を交えてその対応の仕方を報告するとともに、アドバイスもいただいている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、委員の方々に対し運営状況や日々の取り組みについて報告している。又、地域における高齢者福祉政策についての情報もいただいている。	地区長・民生委員・包括職員・家族代表などで構成し2か月に1回開催している。事業所の現状や活動状況、事故等の報告を行い意見交換している。現在はコロナ禍のため、書面を持参し、意見を頂戴している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を長寿支援課に提出し、担当職員からアドバイスをいただいたり、情報収集をしている。	コロナ対応のためのマスク・消毒用アルコールの配布の他、ワクチン接種の日程調整など頻繁に連絡を取り合った。介護施設でのクラスター発生があると感染対策について連絡がある。個別案件については、その都度連絡を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>夜間を除き玄関には鍵をかけず、センサーを利用して人の出入りや動きを確認している。又、今年度の改訂により、未実施の場合減算対象となったこともあり、「身体的拘束等の適正化検討委員会」を設置している。職員に対しても、年2回の研修を行っている。</p>	<p>身体拘束適正化指針等を基に職員研修を実施している。参加者は復命書を事業所に提出し、現場活動に活かす心構えを記している。身体拘束適正化委員会は運営推進会議に位置づけ、今年度は書面開催となっている。玄関の施錠は夜間のみで日中は施錠せずセンサーで動きを把握している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新人教育時や職員会議時に、「身体拘束をしないケア」について研修を行い日々実践している。又、自治体や社協主催の研修会に参加させ、のちに職員全体へフィードバックしている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度についての実践的な事例について、職員会議時に研修を行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、可能な限りご本人とご家族同席のもと、十分な時間をとりご説明している。疑問点・不明な点があれば誠実に説明を尽くしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所の玄関に「投書箱」を設置している。又、ご面会の際などに具体的にご要望をお聞きするようになっている。</p>	<p>家族からは面会や電話の際意見を聞くようにしている。コロナ禍の中、毎月送付している状況報告を、写真付きで詳しくしており、それを受けて意見を寄せてくれる家族もある。目標達成計画に掲げた「家族アンケート」は取り組みができずこれからの課題である。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の休憩室に「提案箱」を設置している。又、職員会議時や申し送りの時間などに、意見や提案を積極的に受け入れている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、自己評価・相互評価を実施している。又、運営実績により給与の引き上げ等を行い、職員の働く意欲ややりがいを醸成する取り組みを行っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や成熟度に合わせ、自治体・社協・各種団体主催の研修会等に可能な限り参加してもらい、個々のスキルアップにつなげている。	個々の職員名を横軸に研修名を縦軸に年間研修計画を作成し、受講の偏りがないように配慮している。今年度は内部研修を核とした。外部研修は職員の力量や経験年数を勘案し可能な限り参加している。今年度は外部研修はオンラインによる参加が多かった。研修後は全員が研修報告書を作成している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH協に加盟しており、地区ブロック会や研修会等に管理者のみならず職員もなるべく参加させ、ネットワーク作りを行っている。	県GH協会に加盟するとともに、天童市の認知症カフェに協会会員として従事し、他事業所職員との交流の機会となっていた。今年はコロナ禍のためオンライン研修にのみ参加している。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に必要に応じて訪問し、ご本人の話をよく傾聴し、又、家族には言えないことも場所を変えてお聞きする等不安を受け止め、安心して過ごしてもらえよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に必要に応じて訪問し、ご家族の話をよく傾聴し不安をうけとめ、安心してサービスを利用していただけるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや担当の介護支援専門員との連携により、必要とされる支援の内容を見極め、状況によっては他のサービスを選択することも考慮にいたれた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が主体であること、人生の大先輩として常に敬う気持ちを忘れずに、お互いに助け合い、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望に応じて、一時帰宅や外出等を通じ家族との時間を作れるように支援している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医やなじみの理美容室への付添など、ご家族の状況に応じて負担にならない程度の支援をいただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話し相手になったり、簡単な手伝いをしてもらったりの関係性を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情によりサービスが終了したとしても、その後の状況を確認し条件さえ合えばグループ内の他事業所を紹介する等のフォロー体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時はもちろん、入居後も折を見てご本人の意向を確認し把握したうえで、ケアカンファレンスの場で実践・反映させている。	利用開始時のフェースシートとアセスメントから本人の出来ること好きなことを把握している。その後も日々の生活の中での聞き取りや言動から思いや意向を把握している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族との面談時に、今までの暮らしについてのお話を伺い、可能な限りそれに沿った生活環境を整えるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペース、出来ること・出来ないことを把握し、残存能力を引き出しながらなるべく現状維持のまま過ごせるような取り組みを行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に変化が見られた場合はもちろん、職員会議を経て最低でも3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。	介護計画は3か月ごとにモニタリングとサービス担当者会議を経て見直しを行っている。また毎月、担当者が介護計画の項目ごとに実施結果を家族に状況報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状況を介護記録に残し、職員間の情報共有を図っている。又、それに伴い課題解決の為に実践し介護計画の見直しに役立てている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所のある地域だけでなく、利用者それぞれの地域の社会資源も把握できるように努め、それを積極的に活用しながら支援をしている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に沿い、医療機関を決めていただいている。事業所のかかりつけ医を希望された場合、定期的な往診により、適宜、医療面でのアドバイスを受けている。	本人や家族の希望する医療機関を継続しているが、往診可能なかかりつけ医に変更する利用者が多い。訪問看護事業所との連携体制を採り医療との結びつきを強化している		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の変化に気づいた場合、事業所の看護師や訪問看護ステーションと連絡をとり、的確なアドバイスを受けそれに対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、医療機関に対し必要な情報を提供し連携している。その後も適宜、連絡を取り合い、退院後の継続的な支援につなげている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り指針を策定しており、時期を見てご家族や関係者に説明するとともに、必要な支援の在り方を協議し他職種とも連携しながら対応している。</p>	<p>重度化した場合や看取りについては利用開始時に説明しており、希望すれば看取り支援にも対応している。実際重度化した場合には家族、医師、訪問看護師、職員と繰り返し話し合い、方針を共有しながら対応している。看取り支援のための研修も実施している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署に委託し応急処置訓練や心肺蘇生法、AEDの講習を受けている。又、ヒヤリハットや事故報告書を活用して職員間で情報共有し研修を行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行っているが、その内1回は近隣の消防署員に立ち会ってもらい、住民の方々にもご協力いただいている。又、全館にスプリンクラーを設置している。</p>	<p>年2回防災訓練を実施し内1回は消防署の参加も得、近隣の住民も参加している。施設の前に川があり、ハザードマップでは水害危険区域にはなっていないものの、様々な災害を想定し近くのコミュニティセンターまで避難訓練を実施した。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者1人ひとりの思いを大事にし、主体的に過ごしていただいている。又、職員は利用者に対して敬う気持ちを忘れずに不適切な対応にならないよう、職員間で注意を払っている。</p>	<p>法人の倫理規定の中に、「尊厳の保持・プライバシーの保護」を明示している。職員は利用者に対して敬う気持ちを大切にして接し、思いが汲み取れるようコミュニケーションを図っている。また接遇研修も実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して一律の支援にならないよう、利用者個々の思いや望みを聞きながら個別に対応している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や論理を押し付けることなく、利用者主体の考えのもと、一人ひとりのペースを大切にしながら過ごしていただいている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、個別支援により洋服等を選んでいただいている。又、訪問理容を利用したりなじみの美容室へ出かける等の支援も行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕の食事はすべて職員の手作りでありメニューも利用者の好みを聞きながら職員が作成している。又、畑で野菜を作り日々の食事に取り入れている。	開設以来15年間、三食とも手作りの食事を提供している。献立作成の過程で利用者の希望も取り入れている。利用者も調理の過程に参加し、自家菜園で収穫した野菜や季節の食材を取り入れながら、作って食べる楽しみを支援している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を記録し、栄養バランスが崩れていないか等をチェックし、適宜、医師・看護師と相談をしながら対応している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持と誤嚥性肺炎の予防のため、毎食後の口腔ケアを行っている。必要な方には職員介助で行っている。又、週に1度、歯科医・歯科衛生士の往診を受けている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の状態を排泄チェック表に記録することにより状態を観察し、排泄週間・パターンを把握し可能な限り自然排泄ができるように支援している。	排泄結果を排泄チェック表に記載し、一人ひとりの習慣やパターンを把握している。排泄支援の必要な利用者については介護計画に位置づけ、全員で話し合いながら排泄の自立に向けた支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調面・精神面の悪影響を理解した上で、なるべくそうならないよう、水分摂取や運動により自然排便につながるよう支援している。又、必要に応じて医師から便秘薬を処方してもらっている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望を聞き入れ自由に入浴していただけるよう環境整備している。入浴しながらの方には場合によっては清拭・着替えをしてもらいなるべく清潔保持に努めている。	利用者の希望を聞きながら週2～3回は入浴できるよう支援している。入浴を渋る利用者については意向を汲みながら対応し、清拭対応の場合もある		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファでのうたた寝や午睡の時間など、一人ひとりの生活習慣を把握しながら、安全・快適に過ごしていただいている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をファイリングし職員全員で情報共有している。又、看護師が処方薬を管理し、都度確実に服薬できるよう支援している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の野菜作り、花壇の花植え、食器拭きや洗濯物たたみ等、一人ひとりに役割をもっていただき、生活に張り合いができるよう支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブ等外出する機会を計画している。天気の良い日は近所を散歩する等、その日その日で臨機応変に対応している。	景観豊かな立地環境を活かし、日常的に散歩を取り入れているほか、自家菜園の水やりや、収穫、花植えなど外気に触れる機会が多い。また季節ごとに紅葉狩りなどのドライブをしているがコロナ禍のため車窓からの眺めで楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の協力・了承のもと、管理可能な範囲で身の回りの物などの買い物ができるように支援している。個人毎に帳簿を作成し、入出金の際に立ち会ってもらっている。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望に応じて、ご家族や友人などへ電話や手紙の投函等を支援している。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分のホールにゆったりと過ごしていただけるよう、テーブル・ソファを設置している。光や音に注意を払い、季節ごとの掲示物・飾り物などで和やかな雰囲気作りに努めている。</p>	<p>共用室はテーブル・ソファが置かれ、思い出の写真や利用者の作品、季節の花が飾られている。加湿器が設置され、時間を決めて換気を行い、感染防止対策を取っている。大きな歌声が聞こえる。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールの隣にある小上がりの畳や、ところどころにイスを置くなどして、独りになれる時間も作れるよう支援している。</p>		
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅で暮らしていた時に使っていた家具などを持ち込んでいただき、なるべく自宅と変わらない生活空間を作れるよう支援している。</p>	<p>本人の希望を取り入れ、居室には自宅で使い慣れた家具や調度品を持ち込むことができる。また、和室生活を好む利用者には床に布団を敷いて使用している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>事業所の内外はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などにふんだんに手すりを設置し、安全に生活できるよう支援している。</p>		